

号外 啓成高新聞

作成
札幌啓成高等学校
新聞局
厚別区厚別東4条6丁目

北海道 開拓の村 昔の暮らしを追体験 ボランティアは約二百人

開拓の村や開拓記念館、百年記念塔は啓成高校付近にある厚別区東部の名所だ。これらは博物館だが、昔の遊びなどを体験できる場でもある。施設を支える人々を啓成高新聞局が取材した。



さ実感



▲輪回しに遊ばれる局員

北海道開拓の村は、歴史的建造物を再現展示している博物館だ。展示物の見学や体験を通じて当時の人々の苦労や知恵を知ることができる。村入口の旧札幌停車場を抜けると、大通りを走る馬車鉄道、左右には旧来正旅館や旧浦河支庁庁舎、旧小樽新聞社などの北海道各地の建造物が立ち並ぶ。

他にも農村群や漁村群、旧札幌農学校寄宿舎「恵迪寮」

などもあり、スポーツごとに楽しめる。

わら細工に苦戦

村では夏期、わら細工の実演を行っている。実演は曜日によって、わらじやむしろ、草履などがある。冬期間は実演に代わり、わらの靴（深靴）を履いて外を歩く事が出来る。



▶手とり足とり教えてもらう

昔遊びに全力

「子供の広場」では、ブランコなどの遊具はもちろん、昔の遊びを体験できる。遊べるのは、竹馬、コマ回し、輪回し（リム回し）。

実際に局員が体験してみると意外にも面白く、特に輪回

道内で唯一の馬車鉄道



現在日本で運行している馬車鉄道は二つのみ。その一つが「開拓の村」の馬車鉄道だ。

大人二七〇円、小人一三〇円で約五分間の旅を楽しむことができる。

定員十八名、重さ二トンもの車両を、

二頭の道産子、温厚なりキと、その名のとおり元気のいいアラシが日替わりで引っ張っている。

馬車鉄道は夏期限定。冬期は土日祝日とさっぽろ雪まつり期間中に、馬車と同じ料金で馬そりに乗ることができる。

敷きわらになり、やがて堆肥になる。ボランティアの太田アイ子さんは「これこそ本当のエコ」と語る。わら以外にも、い草やとうもろこしの内側の皮で作ったわらじなどもある。

わら細工は、まずわらをたいて柔らかくし、それを編んで芯をつくる。その芯を中

しはコツをつかむのが難しいので、一時間も遊び続けた局員もいた。その熱中ぶりは、村に来ていた観光客に「どここの中学校ですか」と聞かれるほど。遊び方が分からなくても、ボランティアの人が親切に教えてくれるので安心だ。



▲鈴木利男さん (79)

心としてわらじなどを編む。作業を見ると簡単そうだが、実際に局員が体験してみると、芯を一本つくるのも力加減が難しく、苦労した。

ボランティアの人たちの間で「ベテラン」と讃えられている鈴木利男さんは七十九歳。「手を動かしているから、年の割にはぼけていない」と語る笑顔が印象的だった。北海道開拓の村への問い合わせは、898・2692へ。

